



## 1 ごあいさつ 所長 浅野 晋一

新型コロナウイルスの感染が依然として懸念される中、休校で新学期を迎えた去年とは違い、今年はコロナ対策に配慮しながら、令和3年度がスタートしました。昨年は行事やイベントが次々と中止になり従来の事業ができない中、活動や取組にも創意改善をしながら学びの多い一年でした。センターも去年の経験を生かしながら、喫緊の課題に向き合い、青少年及び教職員・保護者に新しい有益な情報提供に努め、青少年の健全育成に積極的に関わってまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 2 令和2年度不審者情報まとめ

### I 件数と行為別状況

対象者	小学生	中学生	高校生	その他	合計
行為別					
声かけ	4(2/4)	2(2/2)			6(4/6) 60%
盗撮		1(1/1)			1(1/1) 10%
尾行・つきまとい	1(0/3)				1(0/3) 10%
暴行・連れ去り未遂					
露出	2(2/2)				2(2/2) 20%
痴漢・接触					
おどし					
その他					
合計	7(4/9)	3(3/3)			10件(7/12)
校種割合(女子率)	70%(44%)	30%(100%)			(女子内数/被害者総数)

### II 月別件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	0	2 (1/2)	4 (2/6)	0	1 (1/1)	0	1 (1/1)	0	0	1 (1/1)	1 (1/1)	0	10件 (7/12)
発生率	0%	20%	40%	0%	10%	0%	10%	0%	0%	10%	10%	0%	

- ① 1年間通して**10件の情報**が寄せられました。これは過去6年の平均31件と比べると**近年最も少ない数**になっています。
- ② 10件中**6件が声かけ**、**露出が2件**、**盗撮とつきまといがそれぞれ1件ずつ**になっています。
- ③ **小学生に対して7件**、**中学生が3件**になっており、**高校生が0件**というのも特徴的です。
- ④ **80%が一人のときに遭遇**しており、複数で帰宅することと「**いかのおすし**」のご指導、安全対応をお願いします。
- ⑤ (まとめ) 不審者とは、特に**4～6月にかけて小学校高学年の児童が一人で下校中の16:00～16:30の時間帯に遭遇する傾向**が高くなっています。要注意です。

## 3 令和2年度いじめ状況調査まとめ

### いじめ状況調査 (単位:件)

		いじめ認知件数	解消している	解消に向けて取組中
R1年度	小学校	145	81	64
	中学校	89	68	21
R2年度	小学校	111	83	28
	中学校	49	37	12

阿南市教育委員会は毎年3回のいじめ状況調査を実施しています。令和2年度はいじめの認知件数が減少しています。コロナ禍での学校生活では子ども同士の濃厚な接触を避ける工夫がなされ、子どもの成長にとっては不可欠な人間関係の軋轢や葛藤を生じさせやすい学校行事や集団行動さえも削減されたと考えられます。このことで子ども同士の関係性は薄れ、いじめの減少につながったとの見方ができます。同時に、子ども同士の絆も弱まり、友だちに相談できずに孤立してしまうことが心配されます。心地よく安心して生活が送れるようにするためには、緊密になりすぎず程よい距離感を保ちながら、自然に個性の発揮ができる「緩やかなつながり」を維持していくことが必要になります。

## 4 シリーズ「ネット依存」

これまでもSNS関係については、問題点をいろいろと取り上げ、警鐘を鳴らしてきました。その中で、最も心配されるのがネット依存によって、**自分の心や行動がコントロールできなくなってしまうことです**。そこで、「ネット依存」についてシリーズ化して少し具体的な情報も提供しながら、共に考えていければと思っています。

### (1) 寄せられた相談に見る子ども達の現状

ネット依存が増加する現在、子ども達がどういった状況にあるのか、それを理解いただくには、具体的にどのような相談が寄せられているのか。次の相談内容は、東京都に寄せられたものです。

### ①相談内容(2021年2月・青少年女子)

受験勉強をしなければいけないのにスマホ依存気味で困っている。勉強中は音楽を聞きたい。しかし手元にスマホがあると触りたくなくて、1回だけ動画を見るつもりが、気付くと時間が過ぎている。**スマホから離れるにはどうしたら良いか。**

#### アドバイス

動画を見るのは楽しく、一度見始めると際限なく時間が過ぎてしまう。これを防ぐために、**機械的な制限を利用**することを勧める。スマホの機能によってインターネットやアプリの**利用時間を設定**することができる。また、利用状況や利用時間を目で見て確認する**レポート機能**もある。勉強に集中できるように、勉強の時間帯は必要なアプリ以外を制限するのも1つの方法である。機能制限は自分で解除することもできてしまうため、保護者や家族にも協力してもらおうと良いだろう。

#### ポイント

自粛期間中は自宅で一人で勉強時間を過ごしている青少年も多いと思われる。集中しにくい中で**使い過ぎを自覚できたのは改善のチャンスと**考えてほしい。スマホが手元にあると、自己管理をするのは大人でも難しいことから、**フィルタリング**や**利用時間制限**などの機能を利用すると継続しやすくなるだろう。うまくいかない日があっても落ち込むことなく、**できることから少しずつ取り組むことが大切**である。

### ②相談内容(2018年11月・保護者・青少年男子)

息子が1日中**ゲームにのめり込んでいる**。時間のルールを決めても、守れるのは最初だけですぐにまた時間をオーバーしてしまう。スマホが使えないときはパソコンを使おうとする。ゲームアカウントを削除したこともあるが、いつの間にかまた作っていた。**課金も止める**ことができず使ってしまう。

#### アドバイス

ゲームのやり過ぎを改善するには、本人が時間や生活をコントロールできるように必要がある。やるべきことをやり、余った時間をゲームに使うというルールを徹底して続けていくことが大事である。ただしゲームについては**ゲーム障害という病名で治療が始まっているので、自分の意志で止められない状況であれば、専門医の診察**を受けることが勧められている。機械的な対策として、スマートフォンやPCのフィルタリング、時間制限、タイマーの活用なども有効である。

#### ポイント

自分専用のスマートフォンを持ち歩く青少年が増え、ネットやゲームへの依存を心配する保護者の相談が増えている。ゲームのやり過ぎの問題点は、生活の中で**ゲームが最優先**になってしまい、**食事や睡眠などの日常生活が乱れてしまう**ことである。時間の使い方メリハリをつけてネットやゲームと付き合えるようなルール作りと、守れなかったときのルール決めをして、**家族全員でルールに沿った行動**をとれることが望ましい。一方、子供が何らかの悩みなどを抱えていて、現実逃避の結果としてゲームにのめり込み、時間のコントロールができなくなっているケースも多く見られるため、専門の医療機関に相談することも大事である。

### ③相談内容(2016年1月・保護者・青少年男子)

**スマホを食事の時も離さない**。学校に遅刻するようになり、成績も下がっている。最近、授業中にスマホを使っているのが見つかり、没収された。没収されたスマホは保護者が預かっているが、先生から、ルールを決めて本人に渡した方が良いと言われていた。本人にルール決めさせているが、父親に却下されている。母親にのみ**暴力**もふるう。息子は、自由がほしいと言っている。ルールを作るのに何をしたら良いのか、息子に対してどう接すればいいのか。

#### アドバイス

ルールについては、このまま本人に決めさせるのが適切であり、さらに二重ルールにする。スマホの利用に限らず、**自由には責任が伴う**。自由がほしいければ、責任を持った行動が必要のはずである。まずは責任を持った行動として、生活態度の見直しが必要だろう。遅刻をせず学校へ行く、与えられた課題を期限どおりに提出する、先生や親との約束を守る。こうした行動をすることで、任せても大丈夫だと判断でき、自由も与えられるのではないだろうか。**暴力については、110番、少年相談**を勧める。警察は一般市民から見ると、怖くて敷居の高い存在かもしれないが、同じ過ちを繰り返してほしくない、正しく育ててほしいという強い思いで対応して下さるので、気軽に相談して良い。

#### ポイント

青少年のスマホの所有は増え続けており、低年齢化、長時間利用の傾向も進んでいる。スマホやインターネットを新たに利用する際には、長時間利用がもたらす日常生活への悪影響も親子で理解し、事前にルールを話し合うことが大事だろう。**親子の信頼関係を損なわないためにも、ルール作りは必須**である。すでに長時間利用が常態化してルールが守れない状態では、利用を止められることへの抵抗から、暴力に繋がるケースも少なくない。親子だけで解決しようとせずに、**警察など公的機関の支援を受けることも有効**だろう。

### (2) まとめ

共通して言えることは、子どもたちがどんな状況でも、例えば荒れている、聞くことをしようとしなくても、子ども抜きには解決できないということです。つまり、**解決の糸口は、「話し合い」なのです**。話し合いが成立しない場合は、第三者に入ってもらおう。担任・警察・病院等、そして「話し合い」に持ち込む。**大人が子どもたちとどう向き合うのか**が大切になってきます。